

水源地の村に住んで

僕の住む川上村は、大台ヶ原に近く雨が多
く降る地域です。その為、昔から下流の地域
では梅雨の時期や台風が来ると川の水位が上
がり水害に困っていました。吉野の家は吉野
造りと呼ばれる建て方の家が多く、道から下
にも家が作られ川の水位が上がると水没する
家が多くありました。けれどダムができた事
により、梅雨や台風で増えた水位をダムによ
って調節できるようになりました。この事によ
って下流の地域は水害に困ることが少なく
なったようです。下流の地域とのつながりを
知り調べてみると、奈良県の中には水不足で
困っている地域ともつながりがあることを知
りました。

大和平野は昔から水不足に悩んでいたそう
です。この地域では、農業が盛んに行われて
いましたが、水不足を補うために多くのため

川上村立川上中学校 一年

森口 拓哉

池が作られていました。日照りが続くと農家
の人たちは農作物をからさないように監視し
て水の番をしていたそうです。今から三百年
前のながら村、今の御所市に住んでいた高橋
佐助さんは、大和平野の水不足を解消するた
めに雨の多く降る吉野川の水を利用できない
かと計画を進めていました。けれど、技術的
な課題や費用の問題、吉野川の水を利用して
いる和歌山との調整など多くの問題があり実
現しませんでした。それから何度もこの計
画の話が出ましたが、実現はしませんでした。

昭和二十二年・十津川紀の川総合開発事業
により吉野川の水を大和平野に利用する事業
計画が始められ、三十一年七月二十六日に完
成し吉野川の水が大和平野に流されました。
これが吉野川分水といわれています。話し合
いから実現までに三十七年かかった計画でし

た。三百年前から何度も話し合われていた計画が、昭和の時代にやっと思えた事は地域の人が達にとつてとても望んでいた事だったのだ。ろうとこの吉野川「分水を調べて思いました。次に気になったのは、吉野川分水の水の流れのことでした。

雨が多く降る大台ヶ原から始まり、水源地の水がわき水となり源流を流れて、大迫ダム、大滝ダム、津風呂ダムにためられます。必要に応じて、ダムの水が放流されて吉野川をくだって行きます。大淀の下流頭首工から導水幹線水路を通って一部は御所市の浄水場で飲み水として使われ、東西水工を通り西部東部に流されていきます。昔はため池の水で作られていた奈良県の大和平野のお米は、吉野川分水によっておいしいお米ができるようになりました。吉野川分水は、飲み水、農業用水以外にも河川の水量の調整や水質の改善、地下水の涵養として利用されています。水は流れながらいろいろな事に使われることを知りました。

大和平野土地改良区が発端となり、農家の協力で、おかげ米運動が平成二十三年に行わ

れました。

ダムのある村とその源流の水源地である、川上村、吉野町、東吉野村にいいお米ができる事を感謝し、大和平野で作ったヒノヒカリというお米をおかげ米と命名、贈呈していただききました。その時の僕は、おかげ米に込められた本当の感謝の意味はわかりませんでした。調べた本当の感謝の意味はわかりません。米は本来おいしかったことを覚えていません。村の源流から流れている川の水をきれいにし守っていくことは、下流の人達の暮らしを守ることになり、多くの恩恵があることを知りました。僕は、水源地の森があるこの村に住んでいた事を本当にうれしと感じました。僕は水源地をいつまでもきれいにし、みんなの為に大切な水を守って行きたいと思いました。

